宮　永　岳　彦

優 美 な 世 界

― デッサンから油彩画まで ―

～優美な世界へ貴方を誘います～

宮永岳彦は、若い時から商業美術の挿絵・表紙画・ポスター・童画等と油彩画を並行して制作し、とりわけ油彩画では独自の宮永スタイルを確立し成功を収めました。今展は、クロッキー（速描き）やデッサンから古典絵画まで美を追求した油彩画の軌跡をたどります。

クロッキーやデッサンは本画を描くための基礎訓練ですが、宮永の習作はすでに作品として完成されています。一本の線にこだわり続けた宮永は、たくさんの習作を残しました。これらを見ると当時の息遣いが聞こえてくるようです。また油彩画は、二紀展に毎年発表し鑑賞者を引きつけ好評を得ました。

作品の鑑賞のしかたは人それぞれです。日常を離れて何かを感じ、ひとときでも心を癒していただければ幸いです。

「美しいものをより美しく素直にわかりやすく表現すること」を信条に生涯をかけた表現力豊かな作品。あくなき探求心で自分の理想とする女性像を追求し続けた宮永岳彦の世界観をお楽しみください。

宮永辰夫

今回、初めての試みとして、宮永岳彦画伯の弟子であり、宮永家を継いだ宮永辰夫氏に展示を監修していただきました。

辰夫氏は、1973 年に宮永岳彦画伯の内弟子となり、画伯が亡くなるまでの 15 年間を東京都新宿区にある宮永のアトリエで過ごしました。

現在、二紀会委員及び日本美術家連盟会員であり、画家（雅号・滝辰夫）として活躍されています。

《YUGOSLAVIA 宴》油彩 60F 1972 年

《初夏の装い》油彩 50F 1951 年

《人物》クロッキー 制作年不明

《讃》(絶筆) 油彩 20F 1987 年

《童画》サンウェーブカレンダー 1975 年 10 月

表：油彩画≪翔〈ボッティチェルリ「プリマヴェラ」想〉≫ 100F＋100F 1982 年

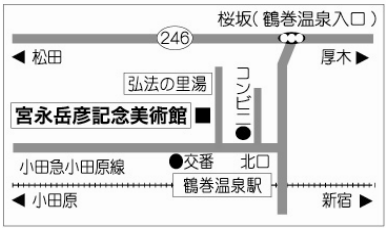
宮永岳彦（1919～1987）

「光と影の華麗なる世界」と称される美人画で知られる宮永岳彦は、父親の転勤のため静岡県磐田郡（現在の磐田市）で生まれ、名古屋市立工芸学校に学びました。2 度の兵役後、実家のある秦野に帰り、松坂屋百貨店銀座店宣伝部に勤務しながら、昭和 21 年から 15 年間、秦野市名古木のアトリエで創作活動を続けました。二紀会の設立に参加、昭和 54 年には日本芸術院賞を受賞、昭和 61 年には二紀会理事長に就任。油彩画をはじめ、ポスター、童画、表紙画、挿絵、水墨画など多彩な作品を残しました。

秦野市立　**宮永岳彦記念美術館**

〒257-0001　神奈川県秦野市鶴巻北 3-1-2
TEL/FAX　0463-78-9100

《隣接》公営日帰り温泉　弘法の里湯　TEL 0463-69-2641



美術館へのアクセス

- ◆ 小田急線 鶴巻温泉駅から徒歩 2 分
- ◆ 駐車場　弘法の里湯と共用 40 台 / 1 時間 150 円 以降 30 分ごとに 100 円